

# 道徳の教科化時代における「道徳の指導法」のあり方について

——教職科目「道徳教育論」の成果と課題——

松原 岳行

## 1. はじめに

今日の学校教育改革のなかでもっとも関心を集めている問題のひとつに道徳の教科化を挙げることができるだろう。1958（昭和33）年以來ずっと続けられてきた「道徳の時間」は、2015（平成27）年3月27日の学校教育法施行規則改正を受け、特別の教科としての「道徳科」として生まれ変わることとなり、それにあわせて学習指導要領の一部改正もすでに行われた。現在は移行期間であるため従来の「道徳の時間」を実施している学校がほとんどのものであるが、2018（平成30）年4月1日からは小学校で、また2019（平成31）年4月1日からは中学校で「道徳科」を全面実施することが決定している。学習指導要領解説の言葉を借りるなら、「考える道徳」、「議論する道徳」が誕生するというわけである。

道徳の教科化というニュースを受け、多くの教育関係者、とりわけ道徳教育を専門とする研究者の多くが関心を示しているのは、道徳科をどう進めればよいのかという問題である。このことは道徳教育関係学会が主催するここ数年のシンポジウムのテーマや分科会で発表される個人研究テーマ等を見ても明らかである<sup>1)</sup>。道徳の時間と道徳科はどう違うのか、道徳科の指導者には何が求められるのか、新たに導入される検定教科書はいったいどのような内容・構成になるのか、道徳科の評価はどうすればよいのか、といった点について盛んに議論されているようであるが、たしかにどのテーマも喫緊かつ重大な問題であると言えよう。

しかし、道徳の教科化は何も小中学校の道徳科に限られた問題ではないはずである。とりわけ教員養成に携わる大学教員が早急に検討しなければならないのは、大学の教職課程において開講している科目「道徳の指導法」を今後どうするかという点であろう。2015（平成27）年12月21日に示された中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について—学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて—」には次のように記されている。

「教職科目における道徳の指導法（又は道徳に関する科目）については、『特別の教科』としての道徳科の趣旨を踏まえた教職課程における位置付けを検討する

とともに、人間に対する理解を深めつつ教員としての指導力を身に付けるために、理論面、実践面、実地経験面の三つの側面から改善・充実を図る必要がある。また、幼児期や高等学校段階も含めた教育活動全体で道德教育の一層の充実が求められることから、教職課程全体でその取扱いの充実を考慮すべきである。」(H27.12中教審答申p.42)

この中教審答申は大学の教職課程に対して、道德科の趣旨を踏まえつつ教職課程における「道德の指導法」の位置づけを検討すること、また理論、実践、実地経験などの諸側面からその改善・充実を図ること、さらに教職課程全体で「道德の指導法」の取扱いの充実を考慮することなどを求めているわけだが、この答申は大学教職課程における道德教育関連科目に対して具体的な指針はほとんど何も示していない。しかしながら、道德の教科化が決定した今、大学における教員養成、とりわけ教育職員免許法施行規則の別表に定められている「道德の指導法」相当の講義について、内容・形式の両面を含むそのあり方を見直すことは有意義かつ重要なことではなかろうか。

以上の問題関心に基づき、本稿においてはまず本学教職課程における「道德の指導法」である「道德教育論」の講義内容を概観する。次に、受講生を対象とした授業評価アンケートの結果を参照しながら本講義におけるこれまでの取組みの妥当性（成果と課題）を検討する。最後に、道德が教科化されゆく時代において大学の「道德の指導法」が今後どうあるべきなのかについて考察する。

## 2. 道德教育論の概要

本学の道德教育論は、高等学校教員免許状のみの取得希望者にとっては選択必修科目、中学校教員免許状の取得を希望する者にとっては必修科目という位置づけとなっているが、本学ではこれまで教育実習に行くための要件単位には指定されていなかったため<sup>2)</sup>、受講生は2年生から4年生までと幅広い。筆者はこの道德教育論を2005年の着任以来ずっと担当しており、異動や退職等の特別な理由がない限り、今後も筆者が担当する予定である。なお、2014年までは他教員と筆者とで分担してきたが、2015年度からは夜間クラスも加え3クラスとも筆者が担当することになった。

【表 1】

回	タイトル	内 容
1	道徳教育論ガイダンス	道徳教育をめぐる今日的状況を踏まえつつ、本講義の意義と目的について理解する。また、小中学校時代に自分自身が受けてきた道徳教育を想起し、その具体的内容や好悪等の印象とその理由について記述する。
2	道徳とは	子ども時代から今日に至るまでに行ってきた善行と悪行について学生自身が時系列的にまとめたうえで（※「善悪の自分史」）、徳は教えられるか？というメノンの有名な問いに対して自らの経験を踏まえながら回答する。 【配付資料】「徳は教えられるか？」のワークシート
3	道徳を教育すること	徳は教えられるか？という問いに対するソクラテスの回答やアリストテレスの道徳観から道徳の知行不一致問題について考えるとともに、インドクトリネーションとインカルケーションという用語の意味を知り、道徳を教育することの特殊性と困難性を理解する。
4	道徳性発達理論(1) 精神分析理論	精神分析理論の代表的存在であるフロイトの理論に注目し、エス・自我・超自我という3つの心的機能の特質を理解した上で、道徳性発達の成否を左右する超自我が乳幼児期にどのように形成されるのかについて考察する。 【視聴覚資料】Mr.Children「[es]—Theme of es—」※歌詞カード配付
5	道徳性発達理論(2) 社会的学習理論	社会的学習理論の代表的存在であるバンデューラに注目し、注意過程→保持過程→運動再生過程→動機づけ過程というモデリング理論を踏まえつつ、幼児のごっこ遊びにおいて正義感やケアの倫理などがいかに学ばれるかについて考察する。
6	道徳性発達理論(3) 認知発達理論	ピアジェの認知発達理論に依拠しながら、草野球を例に子どもにおける規則の実践的適用プロセスを理解するとともに、コールバーグのプロフィールを確認し、学生自身がモラルジレンマ読話を読み込み回答する。 【配付資料】「ハインツのジレンマ」のワークシート
7	コールバーグの道徳性発達段階説(1)	モラルジレンマの意味や機能を把握した上で3水準6段階からなるコールバーグの道徳性発達段階説の特質を理解するとともに、1週間前に自分自身が記述したハインツのジレンマの回答パターンが何段階に属しているのかを検討する。
8	コールバーグの道徳性発達段階説(2)	コールバーグの道徳性発達段階説、とりわけ理念的な終着点とされる第6段階「普遍的な倫理原則への志向」の具体的イメージを把握するとともに、彼の道徳性発達段階説に認められる意義や問題点について考察する。 【視聴覚資料】フジテレビ制作ドラマ「踊る大捜査線」最終話
9	道徳的社会化論	フランスの社会学者デュルケムの理論を手がかりに、道徳の二面性（個人的側面と社会的側面）、社会規範としての法・道徳・慣習、他律と自律の問題について考察した上で、道徳的社会化論の現代的意義や問題点について検討する。
10	日本における道徳教育の歴史(1)	明治期の日本における教育制度に目を向け、学制発布を受けてスタートした修身科の概略を理解した上で、教育令、改正教育令、教育勅語の登場にあわせてその位置づけや役割の変更を余儀なくされた修身科の特質と歴史的意味を考察する。 【配付資料】教育勅語
11	日本における道徳教育の歴史(2)	明治期～昭和期における修身科の道程を概観した上で、第2次世界大戦後の日本における道徳教育の展開、とりわけ1945年の修身科の廃止から1958年の「道徳の時間」特設までの経緯を理解する。 【閲覧資料】尋常小学修身書（明治期～昭和期）
12	学習指導要領	中学校学習指導要領を参照しながら、学校の教育活動全体を通じて行われる「道徳教育」とそれを補充・深化・統合する要としての「道徳の時間」（「道徳科」）の関係性、指導上の留意点などを理解するとともに、道徳の教科化の意味を考察する。 【配付資料】学習指導要領（平成27年3月）解説
13	道徳教育の実践(1)	「道徳の時間」から「道徳科」への移行期において道徳教育をどう実践すべきかについて検討するため、学習指導案の書き方を理解するとともに、道徳の授業に効果的な物語資料や映像資料の具体例を知る。 【配付資料】読み物資料の例「くりのみ」 【視聴覚資料】NHK制作番組「ざわざわ森のガンコちゃん」※年間放送予定表配付
14	道徳教育の実践(2)	教育実習で道徳の授業を経験した先輩らの学習指導案を参照しながら、効果的な道徳授業の構成や要点を理解した上で、ある映像資料を素材にして実際に道徳授業を構想し、授業案を互いに発表し合う。 【配付資料】過去の教育実習生による道徳学習指導案 【視聴覚資料】ASATSU-DK制作アニメ「妖怪人間ベム」最終話
15	道徳教育論の総括	これまでの授業を振り返り、道徳教育に関する重要な知識や考え方について復習するとともに、道徳教育論という授業を通して自分自身が学んだことをレポートにまとめる。

「道徳とは何か」、「道徳を教育するとはどういうことか」といったテーマについて学生自身に考えさせた上で、フロイト、バンデュラ、ピアジェ、コールバーグに代表される道徳性発達理論やデュルケムの道徳的社会化論の特質や意義を解説し、その後、日本における道徳教育の歴史と現代的課題について論じるとともに、道徳教育の具体的な実践方法を提示する。これが本講義の大まかな流れである。こうした基本路線は2005年頃と変わっていないが、学生の反応や意見などを考慮しながら毎年修正を施し、昨年度は表1のようなプログラムとなった。他大学のシラバスを入念にチェックしたわけではないので断定的なことは言えないが、どちらかと言えば理論や歴史に比重を置いた内容構成になっていると思われるため、たとえばMr.Childrenの歌やテレビドラマ「踊る大捜査線」を視聴覚資料として活用したり、明治期に使用されていた本物の『尋常小学修身書』を閲覧させたりするなど、説明時の具体例や資料選びには工夫を施している。

### 3. 道徳教育論の成果と課題——学生目から見た道徳教育論——

道徳教育論におけるこれまでの取組みの妥当性を検証するために、この授業が学生からどのように評価されているのかを見てみよう。参照するのは、本学で以前より実施されている学生対象の授業評価アンケートである。このアンケートの実施時期は前期も後期も基本的には13週目～14週目とされているが、授業の内容や進め方に関して少しでも多くの意見や要望を聴取するために、筆者は授業評価アンケートを15週目の最終回に実施することとしている。

また授業評価アンケートそのものも、たとえば2008年度からは授業に対する意見やリクエスト等を自由に記述できるコメント欄が設けられたり、2011年度からは数値結果がより精密に小数第2位まで表示されるようになったりしたほか、2013年度からは学生自身の自己成長感についての質問項目が新たに追加されるなど、より実効性のある調査となることを目指して常に質問内容や形式の改善を図っている。なお、アンケート用紙の印刷・結果の集計・自由記述欄のコメント入力等の作業は外部業者に委託されている。

では、実際に筆者がこれまでに担当してきた道徳教育論全クラスの受講満足度を見てみることにしよう。2005年以降に筆者が担当した道徳教育論に対する受講生の授業評価を一覧にまとめたのが表2である。左から「実施年度およびクラス」、「登録者数と回答者数」、「回収率」、「授業の総合評価」、そして2013年度から追加された「学生の自己成長感」に関する数値が並んでいるが、ここで注目したいのは右から2つ目の

「授業の総合評価」欄である。なお、この欄の数値だが、「この授業の総合評価をして下さい。」という問いに対して学生は「大変良い」…5、「良い」…4、「普通」…3、「やや悪い」…2、「悪い」…1の5段階で評価することになっており、アンケート結果表には全受講生による5段階評価の平均値（満点は5.00）が示されることになっている。

【表2】

実施クラス	回答数/登録者数 (人)	回収率 (%)	授業の総合評価	学生の自己成長感
2005	85/105	81.0	4.7	—
2006	61/83	73.5	4.6	—
2007	35/46	76.1	4.6	—
2008	54/72	75.0	4.7	—
2009	36/51	70.6	4.6	—
2010	107/135	79.3	4.5	—
2011	79/101	78.22	4.65	—
2012	63/86	73.26	4.63	—
2013	65/73	89.04	4.34	4.29
2014-a	56/70	80.00	4.59	4.35
2014-b	30/39	76.92	4.70	4.43
2015-a	27/31	87.10	4.59	4.52
2015-b	57/70	81.43	4.60	4.46
2015-c	13/15	86.67	4.77	4.62

\*自由記述欄の導入

\*\*学生の自己成長感の導入

2005年～2015年に筆者が担当した道徳教育論全クラスの受講生による授業の総合評価だが、ほとんどのクラスで4.5以上の数値となっていることから<sup>3)</sup>、道徳教育論は受講生のあいだで概ね高評価を得ていると言えよう。では、具体的に授業のどういった点が高く評価されているのだろうか。

この点を明らかにするために、2015年度のアンケート結果の詳細をみてみることにしよう。2015年度の道徳教育論3クラス分の授業評価アンケート結果については別添資料として掲載したとおりであるが、その自由記述欄を見ると、「この授業の良かった点を書いてください」という質問に対しては、「板書が見やすい」、「説明がわかりやすい」、「資料が興味深い」など、技術的側面に関するコメントが目立つ。実際、「板書やパワーポイントなどは、わかりやすかったですか。」の問いに対しては4.67（月曜5限）/4.68（火曜2限）/4.77（火曜6限）という数値が、また「担当教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったですか。」という質問に対しては4.78（月曜5限）/4.65（火曜2限）/4.92（火曜6限）という数値が出ていることから、筆者の道徳

教育論はまずもって形式的観点において好評だということがわかる。

次に内容的観点における評価を確認するために再び自由記述欄を見てみると、学生の自己成長感にかかわるコメントとして【※引用文は原文ママ】、たとえば「思っていたよりも道德っていろんな面を含んでいるのだと実感したから。」(月曜5限)、「道德とは何かを深く掘りさげて学ぶことができた」(月曜5限)、「様々な角度から道德について考えることができたから。」(火曜2限)、「道德の新たな一面を知ったとともに、道德とは何かを深く考える機会となった。」(火曜2限)、「道德とは?あらためて考える事ができ、また、自分の道徳性について学べたから。」(火曜6限)、「道德について知り、どのような働きをして、どう指導するのか、自分のスタイルを確立することはできてはいませんが、考えることができた。」(火曜6限)といった学生の声を拾うことができる。実際、「この授業を受けて、自分を成長させることができましたか。」という質問に対しては、4.52(月曜5限) / 4.46(火曜2限) / 4.62(火曜6限)という比較的高い数値が、また「授業内容は、興味深いと感じましたか。さらにその学問について学んでみたいと感じましたか。」という質問に対しても、全学の評価平均値4.00を上回る4.44(月曜5限) / 4.42(火曜2限) / 4.31(火曜6限)という数値が出ていることを踏まえるならば、技術的側面ほどではないが、内容的側面においても筆者の道德教育論は一定の評価を得ていると言えよう。

その一方で課題もある。自由記述欄の「この授業への意見やリクエストを書いて下さい(どうしたら、良くなるか等について、具体的に書いて下さい)」という項目には、たとえば遅刻に対するペナルティが厳しいという意見(火曜2限)、板書量が多いという不満(火曜2限)、居眠りをする学生への厳罰を求める要望(火曜2限)のほか、「質問などで先生に話しかけると他の人の時と対応が違い冷たい対応された。他人と平等に接して欲しかった。」(火曜6限)という意見が寄せられていた。とくに最後のコメントは教育者として深い反省を迫られる厳しい指摘である。

授業のルールや学生対応に対する不満以外では、たとえば「もっと掘り下げて、生徒自身で研究してみたいと思わせるような内容もあると、さらに良かったと思います。」(月曜5限)という意見や「実際に学校(小・中)で行われている道德の授業の映像を見たい。」(火曜2限)という要望など、向学心溢れるコメントも寄せられている。学生の自己成長感や授業の良かった点に比べればコメント数はごくわずかであるが、いずれも今後の授業内容や運営の仕方を考える上で貴重な意見と受けとめるべきであろう。

#### 4. おわりにかえて——道徳の教科化時代における道徳教育論——

以上、授業評価アンケートを参照しながら道徳教育論の妥当性を検証してきたわけだが、その結果、筆者の道徳教育論は数値的にもコメントの内容的にも概ね高い評価を得ており、またいくつかの課題を残しつつも、道徳教育の重要性や特殊性を再認識させる機会を提供するといった成果を上げているということが明らかとなった。では、筆者のこの道徳教育論は今後どうあるべきなのだろうか。この問いに答えるためには、そもそもなぜ道徳が教科化されることになったのかを知っておく必要がある。

2015（平成27）年7月に文部科学省が発表した中学校学習指導要領解説には、道徳教育の現状と課題が次のように記されている。

「我が国の学校教育において道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。これまで、学校や生徒の実態などにに基づき道徳教育の重点目標を設定し充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている学校がある一方で、例えば、歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されている。」（H27.7解説 pp.1-2）

「道徳の時間」が「道徳科」に形を変えざるを得なかった理由はまさにここに求められると言えよう。修身科時代の記憶に起因する道徳教育そのものへのアレルギー反応、教科ではないことを理由にした道徳授業の軽視、無難な読み物を用いたワンパターンな指導——これらの課題を是正するために、道徳は教科化されることになったのである。見方を変えれば、道徳の教科化というのは、これまで道徳教育に対して消極的だった教員に対する他律的な措置であって、これまでも道徳教育に対して積極的に取り組んできた自律的な教員に対してはほとんど不必要な措置なのである。

そして、何よりも見逃してならないのは、引用箇所の冒頭にも明記されているとおり、そもそも道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行われるべきものであって、道徳の時間の中だけで行われるべきものではないという道徳教育の大原則である。実際、「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う」という道徳教育のいわゆる全面主義については、教科化以後も引き継ぐべきとされている。つまり、道徳科の指導法をいくら究めたとしても、道徳外の教育活動中に何か問題があれば道徳教育は台無しなのである。だとすれば、われわれは道徳の教科化という今回の動きを単に道徳科という一教科の問題にしてはならないはずである。むしろ、道徳教育をめぐる多く

の課題が明るみに出た今こそ問われるべきは、学校の教育活動全体を通じて行われるべき道徳教育と道徳科との関係性、とりわけ両者の効果的な連携のあり方ではないか。

こうした点を踏まえるならば、大学における道徳教育論の内容も道徳の教科化時代だからといって道徳科の指導法に特化する必要はないし、またそうするべきでもないだろう。実際、2015（平成27）年12月の中教審答申の巻末に掲載された教職課程科目配当表の見直しイメージによれば、教育職員免許法施行規則上「道徳の指導法」と表記されていた従来の道徳教育関連科目は今後「道徳の理論及び指導法」（※下線は引用者）と呼称される見込みであり、これまで以上に道徳教育そのものの理論的側面に比重を置くべきとのスタンスが如実に示されている。筆者の道徳教育論は以前より比較的「理論」を重視した内容構成になっていることに加え、本稿で確認したとおり受講生からの評価も概ね高いことから、基本的には今後もこれまでどおりのシラバスで授業を進めていこうと考えているが、道徳の教科化時代に目指される「考える道徳」や「議論する道徳」の指導に対応することができ、なおかつ学校の教育活動全体から道徳科を切り離すことなく道徳教育の全面主義を貫くことのできる教員を養成するために、今後どういったことに力を注ぐべきだろうか。

ここで注目したいのは、道徳に関するいくつかの自己内省的なワークである。具体的に言えば、小中学校時代に自分自身が受けてきた道徳教育を想起し、その具体的内容や好悪等の印象とその理由について記述するワーク、子ども時代から今日に至るまでに行ってきた善行と悪行について学生自身が時系列的にまとめる「善悪の自分史」ワーク、さらには「徳は教えられるか？」というメノンの有名な問いに対して自らの経験を踏まえながら回答するワークであり、いずれもすでにここ数年1～2回目の授業で実施しているものである（表1を参照）。ワークの結果を概観して気がつくのは、道徳の時間以外の日常場面において道徳性を身につけてきた学生が多いこと、また学校の教育活動全体と道徳の時間との不連続性や断絶、とりわけ学校の教育活動全体における態度や言動がとても道徳的とは言えない教員による道徳の時間に対して彼らが強い違和感や不信感を抱いていたということである。道徳教育の目的が子どもの道徳性を養うことにあるとするならば、われわれは決して道徳教育の全面主義を忘れてはならないだろう。

道徳が教科化された今、たしかに道徳科における指導法を身につけることも大事であろう。しかし一番大切なのは、道徳科外の日常的レベルで、あるいは人格的レベルで、教員の道徳性そのものを磨くことなのではないか。もっとも、大学生にまで成長した人間の人格というのは、たとえそれが道徳教育を担当するにふさわしくないような人格であったとしても、容易に修正・錬磨できるようなものではないだろうし、道徳教育論という授業を通して大学生の道徳性を涵養するということにも限界がある



う。ただ、子どもがいかにかに大人の背中（普段の姿、道徳授業外の言動）を見ているかという事実を再認識させることならば可能ではないか。また、このような認識を持つことができた学生には、自分が教師や親になったとき、いつどのような場面で子どもに見られても恥ずかしくない言動を常日頃から心がけようという意識も芽生えるはずである<sup>4)</sup>。この意味でも、筆者が道徳教育論の序盤において実施している諸課題——かつて子ども時代に学生自身が経験したさまざまな思い（大人への不信感、違和感、罪悪感、感謝の気持ち）を想起させる自己内省的なワークは、道徳の教科化時代においてますます有効ではないかと筆者は考えている。今後は実効性の測定をも視野に入れたワークの検討とさらなる充実を図りたい。

## 注

- 1) 筆者の所属する日本道徳教育方法学会では、2014年6月開催の第20回大会において「教科化時代の道徳授業をどう進めるか」という課題研究を、2015年6月の第21回大会においては「学習指導要領一部改正の趣旨を生かす『特別の教科 道徳』の具体的展開」という課題研究を企画している。また、日本道徳教育学会の大会テーマもここ数年は、2014年11月開催の第84回大会が「教科化時代の道徳教育を考える」、2015年6月開催の第85回大会が「学習指導要領改正…これからの道徳教育の在り方を問う——『特別の教科』としての道徳授業はどうあるべきか——」、2015年11月開催の第86回大会が「『特別の教科 道徳』、その特別性を問う」となっており、企画されるシンポジウムのテーマも、「『特別の教科』としての道徳科でこれからの授業をつくる」（第85回大会）、「改めて『特別の教科 道徳』の意義を問う——これを担う教師と研究者の課題を中心に——」（第86回大会Ⅰ）、「教科化によって道徳授業はどのように変わるのか——教科書は？評価は？そして授業の展開は？——」（第86回大会Ⅱ）など、もっぱら道徳科の進め方に焦点化したものが多くなっている。
- 2) 2016年度入学生からは教育実習要件単位に指定されたため、該当学生は3年生までに単位の修得が求められることになる。
- 3) もっとも2013年度の総合評価は4.34という低い数値にとどまっている。2013年度が他の年度クラスと比べ極端に落ち込んだ理由ははっきりしないが、たとえばこの年の回収率が89.04%と他の年度よりも高くなっていることが関係しているかもしれない。すなわち、必ずしも意欲の高くない学生が最終回までドロップアウトしなかったことによりアンケート回収率は上がったが、逆に受講満足度は引き下げられてしまったという推測である。ただ2015年度は全クラスにおいて回収率80%を超え、なおかつ授業の総合評価も4.59（月曜5限）／4.60（火曜2限）／4.77（火曜6限）と比較的高い数値となっている。
- 4) 授業評価アンケートの自己成長感に関する自由記述欄には、たとえば「自分が今から目指す職業はとても責任のあるものだ」と痛感した」（月曜5限）、「教師に必要なことを道徳的に学ぶことができた。」（月曜5限）、「道徳を教育するというを今まで深く考えたことがなかったが、その難しさと重要性を認識することができるようになったから。」（火曜2限）、「何か『徳』がついた気がする」（火曜2限）など、道徳教育に携わる者としての自覚が深まったことをうかがわせるコメントもある。

## 参考文献

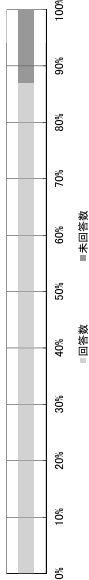
- ・工藤真由美「新しい道德教育に関する一考察」『四條畷学園短期大学紀要』第48号、2015年、1-4頁。
- ・小林宏明「学生が意欲的に取り組む授業の在り方についての考察—『道德の指導法』の授業を通して—」『釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要』第41号、2009年、79-95頁。
- ・作田澄泰・中山芳一「道德教科化に向けた今後の新しい教師教育と学校教育の在り方に関する考察—総合単元的な道德授業カリキュラムから考える真の道德教育の検証—」『岡山大学教師教育開発センター紀要』第6号別冊、2016年、1-10頁。
- ・藤勝宣「道德の指導法に関する基礎的研究（その1）」『九州国際大学教養研究』第22巻第2号、2015年、59-79頁。
- ・原田恵理子「教員養成における道德教育の研究—道德に対する意識の変化と自尊心及びソーシャルスキルへの影響—」『東京情報大学研究論集』第16巻第1号、2012年、1-10頁。
- ・藤永芳純「大学の教員養成における『道德の指導法』の現状と課題」『道德教育学論集』第10号、2000年、61-76頁。
- ・牧崎幸夫「道德の教科化に向けた大学における指導—『道德の指導法』における指導方法の工夫改善—」『龍谷教職ジャーナル』第1号、2013年、70-81頁。
- ・米原優「『道德』の授業における『理由づけ(Reasoning)』の意義—教職に関する科目『道德の指導法』を通じた『理由づけを尊重する態度』の育成—」『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第23号、2015年、11-17頁。

■平成27年度 後学期／授業アンケート結果集計表

九州産業大学

＜集計種別：授業科目別集計＞

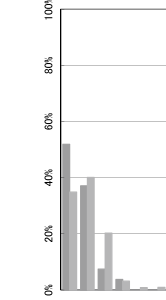
＜集計明細＞	■教員名	松原 岳行
■授業科目名	※道徳教育論	
■受講者数	31名	
■アンケート回答	27名	
■アンケート回答率	87.10%	



I. あなたの授業に対する取り組みについて

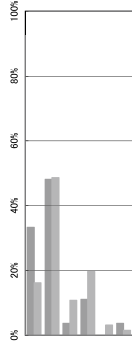
設問1. この授業へのおおよその欠席回数はどうでしたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 0回	14	51.85%	34.88%
4. 1～2回	10	37.04%	40.04%
3. 3～4回	2	7.41%	20.23%
2. 5～6回	1	3.70%	3.13%
1. 7回以上	0	0.00%	0.83%
無回答	0	0.00%	0.88%
合計	27	100.00%	100.00%



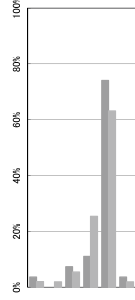
設問2. 履修ガイドのシラバス(職業概要など)を読んで授業の方針・目標や受講上のルール等を理解して臨みましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 理解して臨んだ	9	33.33%	16.18%
4. おおまかに理解した	13	48.15%	48.67%
3. 読んで良かったが良く理解できなかった	1	3.70%	10.79%
2. あまり読まなかった	3	11.11%	19.68%
1. シラバスを知らない	0	0.00%	3.14%
無回答	1	3.70%	1.53%
合計	27	100.00%	100.00%



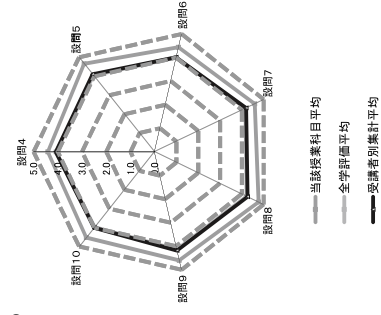
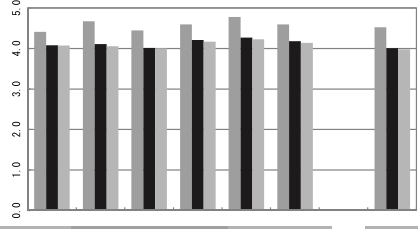
設問3. この授業についての勉強(学修)を1週間あたり何時間しましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 8時間以上	1	3.70%	2.01%
4. 7～6時間	0	0.00%	1.94%
3. 5～4時間	2	7.41%	5.48%
2. 3～2時間	3	11.11%	25.42%
1. 1時間未満	20	74.07%	63.23%
無回答	1	3.70%	1.94%
合計	27	100.00%	100.00%



II. 授業内容及び進め方について (設問4～9)

	評価項目(件数)					無効 アンケート	評価点 合計	当該授業科目		全学	
	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1			評価平均	評価標準	評価平均	評価標準
4 授業は履修ガイド(シラバス)等の内容に基づいて行われましたか。	15	8	4	0	0	0	119	4.41	4.08	4.07	4.07
5 板書やパワーポイントなどは、わかりやすかったですか。	19	7	1	0	0	0	126	4.67	4.10	4.05	4.05
6 授業内容は、興味深いと感じましたか。さらにその学習について学んでみたいと感じましたか。	13	13	1	0	0	0	120	4.44	4.01	4.00	4.00
7 担当教員は学生が集中できる環境(私語・遅刻・中途退席等がない状況)のもとで授業が行われるよう配慮していましたか。	18	7	2	0	0	0	124	4.59	4.21	4.17	4.17
8 担当教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったですか。	21	6	0	0	0	0	129	4.78	4.27	4.23	4.23
9 この授業の総合評価をして下さい。	16	11	0	0	0	0	124	4.59	4.18	4.14	4.14



III. 自己成長について (設問10)

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	無効 アンケート	評価点 合計	当該授業科目 評価平均	全学 評価平均	
10 この授業を受けて、自分を成長させることができましたか。	14	13	0	0	0	0	122	4.52	4.01	3.97



道徳の教科化時代における「道徳の指導法」のあり方について

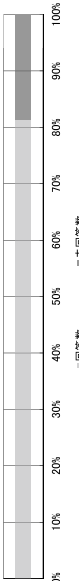
20818	教員名 松原 岳行	IV-13 この授業への見直しやフィードバックを書いて下さい(どうした、良かった点、改善点など)について、具体的に書いて下さい	IV-12 この授業の良かった点を書いて下さい	IV-11 その理由を書いてください
5			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんばる人には評価してくれる点。様々な理論や学説について分かりやすく教えてくれる点。ビデオや実際のエピソードを並べてくれる点</li> <li>・ いろんな角度から、道徳教育論をアプローチしてくださったこと。</li> <li>・ 黒板が綺麗でとても見やすかった。</li> <li>・ 板書がみやすい</li> <li>・ 道徳の授業展開のために分かりやくてビデオやワークシートを用意してくれたので良かったです。</li> <li>・ パランスの良い授業だった。</li> <li>・ 板書のまとまり方</li> <li>・ 板書がキレイでわかりやすい。</li> <li>・ 資料を多く使い、分かりやすい。板書がきれいである。</li> <li>・ イラストや例えがあって理解しやすかった。</li> <li>・ 板書の字がとてもキレイで分かりやすくて、映像資料などもあって分かりやすかった。</li> <li>・ 先生の説明がとても分かりやすい。</li> <li>・ 板書がとても見やすいです。</li> <li>・ 板書、ビデオ等とてもパランスが良い授業。近況報告は文書作成能力が身に付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容がとても為になり、参考になったから。</li> </ul>
5				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思っていたよりも道徳っていろんな面を言っているのだと実感したから。</li> </ul>
5				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の大切さに気づけたから。</li> </ul>
5				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳とは一体何なのか、どういう役割なのかなど考えることができたから。</li> </ul>
5				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が今から目指す職業はとも責任のあるものだと運感した</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の歴史や文化、必要性を再度認識することができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の歴史や教育哲学といった部分まで理解できた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育について理解を深めることができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育はどのようにするか、それがいかにいいかわかった。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳とは何かを深く掘りさげ学ぶことができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師に必要なことを道徳的に学ぶことができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳を学ぶ必要性を再考することができたから。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳について深く考えることができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を再考することができた。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少し前の自分より成長してきたから。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の道徳性について改めて考えられた。教える側に立つても、学生だことを忘れない。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳について深く考えることができたから。</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育ができあがっていく仕組みを学べたから。</li> </ul>

■平成27年度 後学期／授業アンケート結果集計表

<集計明細>

- 授業科目名 ※道徳教育論
- 受講者数 70名
- アンケート回答 57名
- アンケート回答率 81.43%

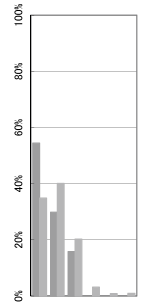
- 教員名 松原 岳行
- 教室名 S206教室
- 曜日/時間 火曜日 2時限
- 調査書コード 1948



I. あなたの授業に対する取り組みについて

設問1. この授業へのおよその出席回数はどうでしたか

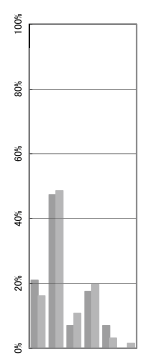
アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 0回	31	54.39%	34.88%
4. 1~2回	17	29.82%	40.04%
3. 3~4回	9	15.79%	20.23%
2. 5~6回	0	0.00%	3.13%
1. 7回以上	0	0.00%	0.83%
無回答	0	0.00%	0.89%
合計	57	100.00%	100.00%



設問2. 履修ガイドのシラバス(講義概要など)を読んで授業の方針・目標や

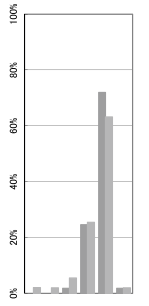
受講上のルール等を理解して臨みましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 理解して臨んだ	12	21.05%	16.18%
4. おおまかに理解した	27	47.37%	48.67%
3. 読んだが良く理解できなかった	4	7.02%	10.79%
2. あまり読まなかった	10	17.54%	19.68%
1. シラバスを知らない	4	7.02%	3.14%
無回答	0	0.00%	1.53%
合計	57	100.00%	100.00%



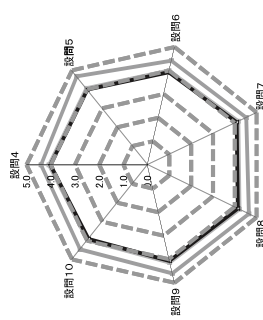
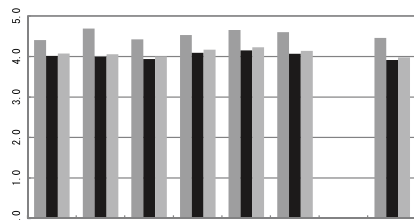
設問3. この授業についての勉強(学修)を1週間あたり何時間しましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 8時間以上	0	0.00%	2.01%
4. 7~6時間	0	0.00%	1.94%
3. 5~4時間	1	1.75%	5.46%
2. 3~2時間	14	24.56%	25.42%
1. 1時間未満	41	71.93%	63.23%
無回答	1	1.75%	1.94%
合計	57	100.00%	100.00%



II. 授業内容及び進め方について(設問4~9)

アンケート内容	評価(回答件数)					無効データ	評物品合計	当該授業科目		全学評価平均
	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1			評価平均	受講者別集計	
4 授業は履修ガイド(シラバス)等の内容に基づいて行われましたか。	32	16	9	0	0	0	251	4.40	4.01	4.07
5 板書やパワーポイントなどは、わかりやすかったですか。	45	6	6	0	0	0	267	4.68	3.99	4.05
6 授業内容は、興味深いと感じましたか。さらにその学習について学んでみたいと感じましたか。	31	19	7	0	0	0	252	4.42	3.93	4.00
7 担当教員は学生が集中できる環境(私語・遅刻・中途退席等がない状況)のもとで授業が行われるよう配慮していましたか。	36	15	6	0	0	0	258	4.53	4.09	4.17
8 担当教員の声や言葉は明確で聞き取りやすかったですか。	43	8	6	0	0	0	265	4.65	4.15	4.23
9 この授業の総合評価をして下さい。	39	13	5	0	0	0	262	4.60	4.06	4.14



III. 自己成長について(設問10)

10 この授業を受けて、自分を成長させることができましたか。	33	18	5	1	0	0	254	4.46	3.91	3.97
--------------------------------	----	----	---	---	---	---	-----	------	------	------



20820	教員名 松原 岳行	IV-12 この授業の良かった点を書いてください	IV-13 この授業への意見やリクエストを書いて下さい(どうしたら、良くなるか等)について、具体的に書いて下さい
III-11. その理由を書いてください		IV-12 この授業の良かった点を書いてください	IV-13 この授業への意見やリクエストを書いて下さい(どうしたら、良くなるか等)について、具体的に書いて下さい
5	生徒自覚でなく、先生自覚でものを見ることができようになつた	・ 板書のきれいだ。話のおもしろさ	
5	深く知ることができた	・ がつつり数学ではなく、映像などの利用で、気分が紛れつつ、内容に集中できた。	
5	様々な映像や音楽、配付資料を利用していたので、イメージがつかみやすかった。	・ 板書がとても見やすく、授業形態がきっちり確立化していて、声も聞き取りやすく、わかりやすい授業だった	
5	道徳を学ぶことはあっても、道徳を教える理由や教え方について学べる機会がそうそうないので、勉強になりました。	・ 先生の板書が良やすい。声が聞きとりやすい。間に挟むこぼれ話が目白。実際の教材などを持ってきていてわかりやすかった。説明がわかりやすかった。	
5	道徳の断たな一面を知ったとともに、道徳とは何かを深く考える機会となった。	・ 先生がとてもおもしろくてよかったです。	
5	あやふやに理解してた道徳性を理解することができた。	・ 板書が見やすく、説明も分かりやすい。	
5	2回目の受講でやっと道徳を知れた気がします。	・ ありがとうございます。	
5	小さいころから道徳教育を受けてきたということがわかったから	・ 映像や資料が多かったこと。	
5	道徳に対する考えが深まったから。	・ ビデオを見て、授業計画を考えたり、音楽を聞いてどう思ったのかを考えるのがおもしろかった。	
5	こんどこそ単位をとると言う気持ちでいけると思う。	・ 字がとてもキレイで解やすい。先生の話がおもしろく、話し方が優しい。対応が優しい。	
5	道徳について学びました。	・ 先生の声が通って集中できた。ガンコちゃんやアニメなどが久しぶりに見るとおもしろかった。	
5	なんとなく。	・ 先生が本当を教えてください。	
5	高校新着を目指しているのに直接関係しない分野だが、生徒を教育していくにあたって、必要となる知識を多々身につけることができたと思う。	・ 黒板がとても見やすかった。映像などがあつた。	
5	今まで道徳に対して考えていた事を覚えるきっかけになつた	・ 分かりやすく、見やすい字。子どもの立場から道徳を学べた。	
5	道徳教育に関する知識が身に付いた	・ 授業の進むペース	
5	道徳という決まった答えの無い教材について、考える時間・又他人の意見なども聞けて、視野が広まりました。	・ 板書がきれいな。歌、映像、実物、学生を飽きさせない構成になっている。	
5	講義の印象もすばらしいが、講義のスタイル、やり方にもすこし勉強になる点があったから。	・ 板書の見やすさ、話の構成が上手い。(脱線しちゃうこともあるけど)	
5	松原先生のまじり込んだ話にはとても驚いたが、自分がズボラすぎるということを理解するきっかけになつた。	・ 板書がきれいで見やすいから自然と自分のノートもきれいに書けるので、勉強しやすい。	
5	自分の中の道徳というものを改めて考えさせられた。	・ 授業のはじめに、前回音からあつめた感想や意見、などを発表して下ること	
5	道徳を教えるコツのようなものを学べたから。	・ ザクザクとした道徳というもので、しっかりと歴史があつたのを学べたのがよかったです。	
5	道徳の原理について学べたから	・ 板書や説明がすごく丁寧で、分かりやすかった。	
5	道徳教育について再度考え直すことができたから	・ 例え話がわかりやすい。黒板もみやすい。実際にビデオをとって、説明してくれるところ。	
5	私も少し先生になれたら、こうやって、こうする授業にしようという考えが思いつくことができました。	・ 先生の板書がきれいな。	
5	知らないことがいっぱいあった。	・ 板書が見やすい点	
4	何か「徳」があつた気がする	・ 私たちの身たり聞いたりしたことがあるものを例にして道徳について説明することはとても良いと思う。	
4	今まであまり深く考えがなかった道徳をもう1度学ぶことで教育にもさらに興味をもてるようになったから。	・ 板書がわかりやすい。	
4	はじめで先生のたちで道徳を考えることができました。	・ 映像などを見たら、感想を書くこと。そして、その感想を次の授業で発表すること。	



III-11. その理由を書いてください	IV-12. この授業の良かった点を書いてください	IV-13. この授業への意見やリクエストを書いて下さい(どうしたいか、どう改善してほしいか)	IV-14. 学習状況(教室・廊下・クラス別・個別など)について、お気づきの点があれば具体的に書いて下さい
4	道徳教育についての基本的な知識、教養を身に付けられたと思うから	DVDや電子教材など映像を見る時間もあって分かりやすくて、あきずに変換することができたこと。教書が丁寧に分かりやすいこと。	
4	道徳について学べた	映像を直せて具体的に説明していた点。	
4	道徳は深い。		
4	道徳に対して理解を深めることができた。		
4	中学で道徳を習っていたときより道徳についてちゃんと考え出したから。		
4	道徳教育の楽しさを知ることが出来た。		
4	道徳について学んだリテレビなどにも道徳に関わるものがあることを知った。		
4	技術についての理解を深められた		
4	道徳教育の大切さが分かったから。		
4	道徳について学べたから		
4	道徳教育について少しずつではあるが理解を深められていると思う。		
4	道徳性へ知識とは別に行動する大切さを学べました。		
3	たくさんことを学ぶことができた		
3	道徳についてや、人の心情について学ぶことができた。		
3	ノートをおまわりとれなかった。		
3	今まで学習したことなかったところを学ぶことができた。		

教員名 松原 岳行

20820

## 平成27年度 後学期 / 授業アンケート結果集計表

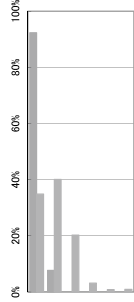
＜集計明細＞

■ 授業科目名	※道徳教育論	■ 教員名	松原 岳行
■ 受講者数	15名	■ 教室名	2W508教室
■ アンケート回答	13名	■ 曜日/時間	火曜日 6時限
■ アンケート回答率	86.67%	■ 調査書コード	1949

## I. あなたの授業に対する取り組みについて

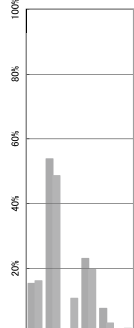
設問1. この授業へのおおよその欠席回数はどうでしたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 0回	12	92.31%	34.88%
4. 1～2回	1	7.69%	40.04%
3. 3～4回	0	0.00%	20.23%
2. 5～6回	0	0.00%	3.13%
1. 7回以上	0	0.00%	0.83%
無回答	0	0.00%	0.89%
合計	13	100.00%	100.00%



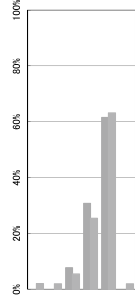
設問2. 履修ガイドのシラバス(講義概要など)を読んで授業の方針・目標や受講上のルール等を理解して臨みましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 理解して臨んだ	2	15.38%	16.18%
4. おおまかに理解した	7	53.85%	48.67%
3. 読んだが良く理解できなかった	0	0.00%	10.79%
2. あまり読まなかった	3	23.08%	19.68%
1. シラバスを知らない	1	7.69%	3.14%
無回答	0	0.00%	1.53%
合計	13	100.00%	100.00%



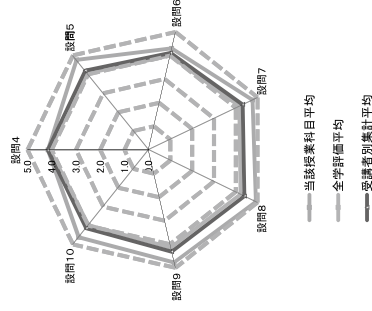
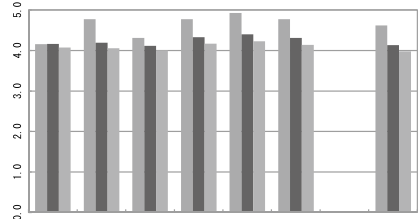
設問3. この授業についての勉強(学修)を1週間あたり何時間しましたか

アンケート内容	回答件数	構成比	全学構成比
5. 8時間以上	0	0.00%	2.01%
4. 7～6時間	0	0.00%	1.94%
3. 5～4時間	1	7.69%	5.46%
2. 3～2時間	4	30.77%	25.42%
1. 1時間未満	8	61.54%	63.23%
無回答	0	0.00%	1.94%
合計	13	100.00%	100.00%



## II. 授業内容及び進め方について (設問4～9)

アンケート内容	評定(回答件数)			無効データ	評価合計	当該授業科目		全学評価平均	
	評価5	評価4	評価3			評価1	評価2		評価平均
4 授業は履修ガイド(シラバス)等の内容に基づいて行われましたか。	6	3	4	0	0	54	4.15	4.16	4.07
5 板書やパワーポイントなどは、わかりやすかったですか。	11	1	1	0	0	62	4.77	4.19	4.05
6 授業内容は、興味深いと感じましたか。さらにその学習について学んでみたいと感じましたか。	6	6	0	1	0	56	4.31	4.11	4.00
7 担当教員は学生が集中できる環境(私語・遅刻・中途退席等がない状況)のもとで授業が行われるよう配慮していましたか。	10	3	0	0	0	62	4.77	4.32	4.17
8 担当教員の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかったですか。	12	1	0	0	0	64	4.92	4.40	4.23
9 この授業の総合評価をして下さい。	11	1	1	0	0	62	4.77	4.31	4.14



## III. 自己成長について (設問10)

設問10	この授業を受けて、自分を成長させることができましたか。	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	合計	評価平均	
10	この授業を受けて、自分を成長させることができましたか。	3	1	0	0	0	60	4.62	4.13



III-11. その理由を書いてください		IV-12. この授業の良かった点を書いてください		IV-13. この授業への意見やリクエストを書いてください(どうしたいか、どの点か、どの点か、どの点か)		IV-14. 学習環境(教室、設備、クラス別環境など)について、お気づきの点があれば具体的に書いてください	
5	人の道徳について深く考えることができた						
5	今までの道徳用教材のイメージが変わりました。						
4	道徳教育の成り立ちや存在する意味などが少しずつわかったから						
4	道徳について知り、どのような働きをして、どう指導するのか、自分のスタイルを確立することはできてはいませんが、考えることができた。						
3	道徳について詳しく学べた。						

教員名 松原 岳行

20822